

チームで救う～ICLS コースを受講して～

◎山田 貴士¹⁾、神澤 和樹¹⁾、猪浦 一人¹⁾、福島 史人²⁾
埼玉県済生会加須病院¹⁾、埼玉県済生会加須病院 救急医学科²⁾

【はじめに】当院では平成元年の開院時より心臓カテーテル検査及び内視鏡検査に臨床検査技師が従事しており 24 時間対応している。心臓カテーテル検査では患者急変に遭遇する機会も多く、特に夜間休日の限られた人員での蘇生処置を学ぶべく、日本救急医学会認定 Immediate Cardiac Life Support (ICLS) コースを受講した。実際に ICLS が蘇生処置にどのように活かされたかを報告する。

【ICLS とは】突然の心停止に対する最初の 10 分間の適切なチーム蘇生習得を目標とする蘇生処置に特化したコースである。

【ICLS の研修内容】はじめに ICLS についての概説があり、5、6 人のグループで実技演習を行う。午前は Basic Life Support, モニター管理, 電氣的除細動, 気道管理といった蘇生処置を行う上で求められる手技を実習する。午後は午前で学んだ手技を基に輸液路確保と薬剤投与までを含むチームとして役割分担を決め、実際に起こり得るシナリオに沿って蘇生処置を行う。

【実症例】ICLS コースを受講後、休日に急性冠症候群に対

する緊急心臓カテーテル治療中に急性肺水腫を発症し、呼吸停止及び循環動態悪化に対して医師が気管挿管を行うまでバッグ・バルブ・マスク (BVM) を用いた補助換気を担当した症例と、夜間救急で心室細動で搬送され、血管造影室で体外式膜型人工肺 (ECMO) を装着するまで胸骨圧迫、除細動器の操作を担当し、救命できた 2 症例を経験した。蘇生処置の流れを理解し、各々が適切な役回りを遂行することで人員が限られた中でも患者急変時に対応することができた。

【まとめ】臨床検査技師が胸骨圧迫のみでなく、除細動器の操作や BVM による補助換気等が行えることで医師が処置・治療に専念でき、救命率の向上に寄与すると考える。ICLS コースを受講したことで患者急変時にも他部署と連携をとり、冷静に対処することができるようになり、自身の中での自信にも繋がった。今後は ICLS の内容を科内で共有し、ICLS コース受講を促していきたい。

連絡先 0480-70-0888(内線 2078)